



マザーズサポーター倫理規定

NPO法人マザーズサポーター協会は、マザーズサポーターが、育てる人、貢献する人を支援し、「すべての人は、最善の選択をしている」「常に相手の自立に向けて支援する」を基本である、自立型支援方法を使って人とかかわると信じています。この観点に基づき、マザーズサポーターの役割は以下のとおりであると考えます。

理念

- ◆ 相手の無限の能力、可能性をいつも信じる。
- ◆ 信頼関係を構築するために、いつも安心感のある安全な場を作り出す。
- ◆ 相手を常に勇気付け、責任を取る権利を奪わない。
- ◆ 自立型支援にふさわしい振る舞いをし、マザーズサポーターに対する一般の理解や、支持を損なう行為はしない。
- ◆ 相手の「自立した、充実した人生を生きること」に意識を向け、貢献する。

《相談者に対する責任》

援助を必要とする人が適切なセッションを受けられるようにする。

1. マザーズサポーターは、セッションにおける相談者との関係を利己的な目的（自己の調査目的や興味）のために用いない。
2. マザーズサポーターは、相談者の選択の自由を尊重する。
3. マザーズサポーターが、セッションを録音したり、第三者による観察を許可する場合は、前もって相談者に承諾を得る。
4. マザーズサポーターは、自らの資格、能力、経験を正しく告知する。

《守秘義務》

マザーズサポーターは、守秘義務を守る。誰かに明確で緊急な危険が及ぶのを防ぐ場合や、法によって求められた場合はこの限りではない。

1. 相談者の氏名、内容などは相談者の許可なく情報を公開しない。
2. マザーズサポーターは、教育、執筆、講演において相談者のセッション内容を公開する場合、相談者の承諾を得た上で行う。
3. マザーズサポーターの普及のために、相談者が誰であるか特定できないような方法を講じた場合のみ、内容などの公開が出来る。

《専門家としての能力と資質》

マザーズサポーターは自立型支援方法の専門家として、常に高い能力と資質を維持するよう努めなければならない。

《処分等》

次のような場合は、マザーズサポーターの資格を剥奪され、協会から除名される。

1. 倫理規定に著しく違反したとき。
2. 犯罪を犯したと認められるとき。
3. 資格の認定において不正な行為をとったことが明らかになったとき。
4. 自らの能力があると認められた領域以外で診断を下したり、治療行為をしたとき。
5. その他、上記に準ずる行為があったとき。

《倫理委員会》

協会に倫理委員会をおき、上記処分の決定は、倫理委員会の議を経て行うものとする。